



秋吉台・秋芳洞地域の唯一性・独自性のある お土産商品開発-デジタルデザインを中心として-

山口大学教育学部 准教授 平川和明・教授 中野良寿・名誉教授 田中和広

【プロジェクトの概要】

近年の世界的な観光旅行者数の増大に伴い、秋吉台や秋芳洞などの豊富な地域観光資源を持つ美祢市においても海外からの旅行者はもちろん、国内旅行者の増加も見込まれる。そのような状況において美祢市の抱える観光振興における課題の1つに「お土産のニーズ」があり、美祢市の魅力を発信できるお土産の商品開発が求められている。そこで、地域振興への寄与とデザイン教育を目的として、美術教育を学ぶ学生を中心にデザインのプロセスを実践的に体験し学びながら、新たなお土産の商品企画・開発をおこなうプロジェクト活動を2023年度から行っている(図1)。実際に商品化に繋げることが目標である。

【活動内容】

2023年度の活動の成果として制作作品の数点が商品化となり、美祢市観光協会で販売されている。その経験から、販売業者等に興味を持ってもらうためには、現実的な生産面での実現性が必須であり、アイデアを具現化して商品化できるクオリティーの試作品の提示も必要である。いくら良いデザインの提案をおこなったとしても、生産方法が明らかにできていないものの商品化は難しい。そのため、デザインを行う商品の用途や機能などを含めた商品分野の選択は重要である。これらを考慮して、本年度は生産が容易であるデジタルを用いた印刷による商品開発を中心に進めることとした。その中でも特にお土産の商品分野として訴求力の高い「Tシャツ」のデザインを進めていくこととした。商品分野を「Tシャツ」に絞ったことによって多くの学生にデザインの依頼が可能になった。

山口大学と山口芸術短期大学の学生にも依頼を行い、約50種程度のTシャツデザインを完成させた。それ以外にも、手ぬぐい、ポストカード、タオル、トートバック、小物入れ、マスキングテープなどのデジタルデザインを中心とした商品開発を行なった。

これらの成果発表として山口大学教育学部美術教育選修の卒業制作展内での展示や、秋吉台国際芸術村ギャラリーにて「冬のTシャツ展」(図2)を企画し、作品展示を実施した。今後、商品化に繋げるために地域住民や観光客、公的機関、企業を含めた地域社会に広く情報発信をしていきたい。



図1 プロジェクトの流れ



図2 展示会のチラシ